

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 30年7月26日

事業所名 つつじ学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	86%	14%	スペースに合わせて活動内容や物品配置を工夫しています。	
	②	職員の配置数は適切である	46%	54%	クラス外の職員を効果的に配置しています。	欠員が生じないよう職員採用を推進します。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	77%	23%	段差のない構造と手すりやドア窓のマジックミラーの整備、パーテーションや指示目的の写真・絵カード等の提示で安心感につながっています。	児童の状況に応じて施設の機能を生かしているか検証するとともに、老朽化が進む施設について改修・改善に努めます。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	83%	17%	衛生と安全安心に配慮して、清掃の徹底と安全点検に取り組んでいます。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	68%	32%	法人として組織を立ち上げ、業務改善を推進しています。	全職員の参画意識の向上に取り組みます。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	91%	9%	保護者向けアンケートを実施し、集計結果と分析及び改善の取り組みを保護者にお知らせしています。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	84%	16%	自己評価結果の分析及び改善の取り組みについて精査しています。	より効果的な発信の手立てを研究します。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	72%	28%	法人の評議委員会で運営や活動の審査を受けています。	改善の取り組みについて学園だより等で発信します。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	92%	8%	毎月1回、施設内研修を実施しています。	職員の外部研修への参加に積極的に取り組めます。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	91%	9%	専門指導職員を含め複数の職員が連携してアセスメントの向上に取り組んでいます。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	68%	32%		アセスメントの精度が高まるツールについて研究します。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	88%	12%	児童発達支援ガイドラインに基づいて必要な支援を選択し、児童発達支援計画に設定しています。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	80%	20%	複数の職員で活動の打合せと事後の振り返りを行っています。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	91%	9%	活動後に振り返りを行い、児童の意欲と効果を検証します。	小集団の良さを生かした多様な活動について研究します。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%		
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	91%	9%	児童発達支援管理責任者を交えて、職員間で綿密に打ち合わせます。		

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	75%	25%	活動終了後の振り返りにより、職員間で情報を共有しています	職員間の情報共有の時間の確保に向けて、業務精査を推進します。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	97%	3%		
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	97%	3%	モニタリングで得られた結果を基に担任、児童発達支援管理責任者、専門指導職員等で検討協議します。	
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	97%	3%	児童一人一人の状況を把握している、経験豊かな児童発達支援管理責任者が担当しています。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	91%	9%	関係機関等との連携強化に向けて、渉外と施設内の支援体制構築をコーディネートする職員を配置しています。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	94%	6%	保護者からの依頼に基づき医療、行政、関係機関と連携します。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	94%	6%	保護者からの依頼に基づき医療機関と連携します。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	保育所等訪問支援の体制を整えています。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	保護者の求めに応じて、就学校との相談に協力します。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	86%	14%	連携会議や随時の機会を通して情報提供等を受けています	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	94%	6%	児童発達支援センターでは近隣の保育園との交流保育を行っています。	
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	91%	9%	自立支援協議会そだちの支援部会の部会長として、活動を推進しました。	
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		
	保護者へ	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	74%	26%	母子通園児童保護者の療育参加や、講師を招いての講演に取り組んでいます。
㉜		運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	97%	3%	インテークや入園に向けたオリエンテーション等で説明しています。	
㉝		児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%		児童発達支援ガイドラインについて保護者の理解の向上に努めます。
㉞		定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		
㉟		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	97%	3%	保護者会の会場提供と各種相談に協力します。	

の 説明 責任 等	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	ニーズに応じた相談体制を構築するため、コーディネートする職員を配置しています。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%		
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	97%	3%	児童には視覚情報の活用、保護者には面談、電話、連絡帳等多様な手立てで取り組んでいます。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	94%	6%	年1回の学園祭や求めに応じて随時の見学・説明会を実施しています。	
非常 時等 の 対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	85%	15%	警察と連携し、防災担当組織主導で防犯訓練等を実施しています。	様々な事態を想定し、職員が適切に判断して対応できるツールの作成を検討します。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	月1回の火災避難訓練をはじめ、各種災害想定で訓練を実施しています。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%		
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%		
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	91%	9%	確認されたヒヤリハット事例を会議で検証し、再発防止策を確認しています。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	88%	12%	年度当初に自己点検及び防止に向けた研修を実施しています。	研修の内容や実施回数について研究します。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している支援計画に記載している	94%	6%	緊急避難の際に、状況に応じておんぶ等の対応を行うことを保護者に伝えています。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。